

1. 科目名 (単位 数)	司法・犯罪心理学／犯罪心理学 (2 単位)	3. 科目番号	PSMP3359								
2. 授業担当教員	高木俊彦										
4. 授業形態	講義、集団討議、グループ研究・同結果のプレゼンテーション、学生との応答。	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・ 他科目との関係											
7. 講義概要	<p>心理学の立場に依拠しつつ、犯罪や非行の原因を生物学的要因、心理学的要因、社会的要因などから探る。生物学的要因として主にロンブローゾの学説やホルモン・神経伝達物質、条件付けとの関連等について理解し、心理学的要因としては行為障害や人格（パーソナリティ）障害、セルフコントロールとの関連等について理解する。社会的要因としてはアノミー論や分化的接触理論、社会的絆理論、ラベリング理論、競争の激化に伴う格差社会の進展やマスコミ報道が及ぼす影響等について考察する。また、具体的犯罪内容については、暴力犯罪、性犯罪、DV・ストーキング・虐待、窃盗・強盗・放火などの類型に分けて理解する。さらに、犯罪捜査や防犯、犯罪者や非行少年の矯正・保護といった処遇システムについても、心理学のみならず、社会学、司法、精神医学などの立場からの理解を深めながら、犯罪心理学という学問あるいは心理職がどのような役割を果たせるのか、その可能性について考察する。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 犯罪や非行の原因を生物学的要因、心理学的要因、社会的要因などから説明することができるようになる。 2 犯罪の動機・原因を犯罪の種類と関連させながら理解し、説明することができるようになる。 3 特に、最近の無差別殺人事件や通り魔殺人事件、あるいはストーカー殺人事件に象徴される現代型犯罪の原因・背景について、受講生自らの事例研究・発表を通し、犯罪心理学の観点から理解し、説明することができるようになる。 4 犯罪・非行にかかる刑事司法機関、処遇機関の役割・機能について理解し、説明することができるようになる。 5 犯罪の未然防止や犯罪者の更生・社会復帰の可能性について理解し、説明することができるようになる。 6 犯罪に関係する諸科学、諸理論について理解し、説明することができるようになる。 7 犯罪や非行に関係する職場に就職するための専門的知識を身に付けることができるようになる。 										
9. アサシメント (宿題) 及びレポ ート課題	各自又はグループごとに犯罪事例のレポート（又はZOOMでの画面共有用のパワポ資料）を作成し、授業中に発表する。 グループ研究と演習（ケーススタディ等）を行う。										
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】 越智啓太著『司法犯罪心理学』サイエンス社。及び講師作成の資料。										
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポートや論文の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解し、説明できるか。 2. 分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章を作成する力がついたか。 <p>○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。]</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>2 期末試験</td> <td>総合点の40%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4 日常の学習状況</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加	総合点の20%	2 期末試験	総合点の40%	3 課題レポート	総合点の20%	4 日常の学習状況	総合点の20%
1 授業への積極的参加	総合点の20%										
2 期末試験	総合点の40%										
3 課題レポート	総合点の20%										
4 日常の学習状況	総合点の20%										
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1 常に新聞・テレビ・ネット・雑誌などマスメディアに関心を寄せ、社会事象である非行や犯罪問題について、その心理学的背景を考える習慣を身に付けるなど、積極的態度で受講されたい。 2 授業に集中すること。特に対面授業の場合は、私語、携帯・スマホのON、ゲーム、飲食、中抜け、居眠りなど授業の支障となる行為をする者は受講を遠慮願いたい。 										
13. オフィスアワー	初回の授業開始時（初回授業）に担当教員からお知らせする。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	オリエンテーションー犯罪とは何か、犯罪と刑罰の歴史、凶悪犯罪は増えているか	事前学習	各受講生1例ずつ最近印象に残った犯罪について調べる。								
		事後学習	個人又はグループで発表する犯罪事例について調査・研究・取りまとめの計画を立てる。								
第2回	人はなぜ犯罪者になるのか ー犯罪の生物学的原因論	事前学習	テキスト第1章（pp.1～22）を精読して講義に臨む。								
		事後学習	犯罪の生物学的原因論について、学んだことを学習ノートにまとめる。								
第3回	人はなぜ犯罪者になるのか ー犯罪の心理学的原因論	事前学習	テキスト第2章（pp.23～44）を精読して講義に臨む。								
		事後学習	犯罪の心理学的原因論について、学んだことを学習ノートにまとめる。								
第4回	人はなぜ犯罪者になるのか ー犯罪の社会的な原因論	事前学習	テキスト第3章（pp.45～62）を精読して講義に臨む。								
		事後学習	犯罪の社会的な原因論について、学んだことを学習ノートにまとめる。								
第5回	犯罪の種類と犯罪の心理（1）暴力犯罪	事前学習	テキスト第4章（pp.63～84）を精読して講								

			義に臨む。
		事後学習	暴力犯罪について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第6回	犯罪の種類と犯罪の心理(2) 性犯罪、ネット犯罪	事前学習	テキスト第5章(pp.87~104)を精読して講義に臨む。
		事後学習	性犯罪、ネット犯罪について、学んだことを学習ノートにまとめる
第7回	犯罪の種類と犯罪の心理(3) DV、ストーキング、虐待	事前学習	テキスト第6章(pp.105~128)を精読して講義に臨む。
		事後学習	DV、ストーキング、虐待について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第8回	犯罪の種類と犯罪の心理(4) 窃盗、強盗、放火	事前学習	テキスト第7章(pp.129~150)を精読して講義に臨む。
		事後学習	窃盗、強盗、放火について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第9回	事例研究 (個人又はグループによる発表、グループディスカッション、講師によるコメント等)	事前学習	事例発表を担当する個人又はグループはその発表準備。その他のメンバーは発表事例に関係する情報の収集。
		事後学習	事例発表の内容とその後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第10回	事例研究 (個人又はグループによる発表、グループディスカッション、講師によるコメント等)	事前学習	事例発表を担当する個人又はグループはその発表準備。その他のメンバーは発表事例に関係する情報の収集。
		事後学習	事例発表の内容とその後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第11回	事例研究 (個人又はグループによる発表、グループディスカッション、講師によるコメント等)	事前学習	事例発表を担当する個人又はグループはその発表準備。その他のメンバーは発表事例に関係する情報の収集。
		事後学習	事例発表の内容とその後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第12回	事例研究 (個人又はグループによる発表、グループディスカッション、講師によるコメント等)	事前学習	事例発表を担当する個人又はグループはその発表準備。その他のメンバーは発表事例に関係する情報の収集。
		事後学習	事例発表の内容とその後の教員のコメント・講義等から学んだものを、学習ノートにまとめる。
第13回	犯罪捜査	事前学習	テキスト第8章(pp.151~172)を精読して講義に臨む。
		事後学習	犯罪捜査について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第14回	防犯	事前学習	テキスト第9章(pp.187~206)を精読して講義に臨む。
		事後学習	防犯について、学んだことを学習ノートにまとめる。
第15回	司法・裁判、犯罪者の処遇・社会復帰(矯正・更生保護)	事前学習	テキスト第9章、第10章(pp.175~186、PP.207~228)を精読して講義に臨む。
		事後学習	犯罪者の司法・裁判、処遇・社会復帰(矯正・更生保護)について、学んだことを学習ノートにまとめる。
<p>期末試験 (全面对面授業となった場合は期末試験を実施。併用授業又はオンライン授業の場合は課題レポート等で代替)</p>			